

# 【NRCLレポート】 花粉症／花粉アレルギー調査

## Part1：全体編

2016年3月調査結果

 **日本リサーチセンター**  
Member of Gallup International Association

東京都中央区日本橋本町2-7-1  
TEL:03-6667-3400（代） FAX:03-6667-3470  
<http://www.nrc.co.jp/>

## ◆NRCLレポート

日本リサーチセンター（NRC）では、**全国15～79歳男女1,200人を対象に、訪問留置のオムニバス調査（NOS）**を、毎月定期的を実施しております。本レポートは、NOSを利用した自主調査「**花粉症/花粉アレルギー**」についての紹介です。

この調査は、2003年3月に初めて実施し、その後、2010年以降毎年3月に実施している時系列調査です。サンプル数は、エリア・都市規模と性年代構成を日本の人口構成比に合致するよう割付をおこないました。また、対象エリアは日本全国、年代は15歳から79歳までと対象者の幅を広く設定していますので、全体結果は日本人全体の実態や意識を反映しているとお考えください。

調査結果は、「Part1:全体編」（本篇）と「Part2:花粉症/花粉アレルギーの人の調査結果編」の2つに分けてご紹介します。

## ◆調査内容/項目

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| ①アレルギーと花粉症         | ②「舌下免疫療法」/認知、治療意向、推奨意向 |
| ③最近3か月間に花粉対策でとった行動 | ④最近3か月間で花粉対策で購入した商品    |
| ⑤マスクをつけることについて     |                        |

## ◆Part1：全体編の主な結果は以下の通りです。

### ①アレルギーと花粉症

- **2016年全体の結果では**、「アレルギーは持っていない」と回答した人は52%であり、すなわち、2人に1人はなんらかの「アレルギー」を持っている。
- アレルギーの種類では「花粉症/花粉アレルギー」が35%と最も多い。次いで、「ハウスダスト・ダニアレルギー」が12%、「金属アレルギー」「食物アレルギー」「ペットの毛アレルギー」が5%台で続く。

- **年代別でみると**、「花粉症/花粉アレルギー」は、15~29才は32~36%だが、30~40代では40~44%と多い。さらに、50代では38%、60代では31%、70代では25%と、高齢になるほど減少する。
- 「ハウスダスト・ダニアレルギー」は、全体では12%だが、15~39才では17~18%と比較的多い。一方、60~70代では2~6%と少ない。
- 「ペットの毛アレルギー」や「金属アレルギー」は、全体では5%台と少ないが、30代では1割強と多くみられる。
- 「アレルギーは持っていない」に注目すると、30代で最も少なく、70代で最も多い。つまり、なんらかのアレルギー症状を持っている人は30代で最も多く、70代で少ない。
- **エリア・都市規模別でみると**、「花粉症/花粉アレルギー」は、関東（41%）、近畿（44%）で多く、北海道・東北（21%）、中国・四国・九州（26%）で少ない。また、21大都市で42%と多い。
- **時系列変化をみると**、「花粉症/花粉アレルギー」は2016年が35%で、昨年と変化がなかった。2003年と2016年の2期での変化では、25%→35%と10ポイント増加している。

## ②「舌下免疫療法」 / 認知、治療意向、推奨意向

- 「舌下免疫療法」を簡単に説明した後、この療法に関する認知を聞いたところ、2016年の全体結果では、内容まで認知している人は13%、名前だけの認知は22%で、合わせて35%の人が知っていた。
- スギ花粉症やダニアレルギーの治療として、「舌下免疫療法」を受けてみたいと思うかを聞いたところ、「治療を受けたことがある/現在治療中である」は1%未満だが、「受けたことはないが、受けてみたいと思う」は15%ある。また、「受けてみたいとは思わないが、興味・関心はある」は39%で、治療意向は1割半ばと少ないが、興味関心を持っている人も合わせれば、半数以上が意向または関心を持っていると言える。
- スギ花粉症やダニアレルギーの治療として、「舌下免疫療法」を家族や友人に勧めたいと思うかを聞いたところ、「ぜひ勧めたいと思う」は3%と少ないが、「まあ勧めたいと思う」と回答した人は33%あり、合わせると36%の人が推奨意向を示している。

### ③最近3か月間に花粉対策でとった行動

- この3か月くらいの間に、自分や家族が花粉対策のためにどのような行動をしたかを聞いたところ、「外に干した洗濯物をとり入れる前に、洗濯物の花粉を払うようになった」と「空気清浄機を利用するようになった」がともに17%で最も多い。次いで、「窓を開けなくなった／換気の回数を減らした」「花粉がつくのを防ぐため、洗濯物を部屋干しするようになった」「ふとんを外に干すのをやめた」が14～15%で続く。
- 「ふとん用クリーンスプレーを利用するようになった」「ふとん専用掃除機を利用したり、ふとん用掃除機ノズルを付けて掃除するようになった」など、ふとんの掃除行動は5%以下と少ない。
- 一方で、「上記のような花粉対策はしていない」は54%ある。つまり、半数近くの世帯では、上記のようないずれかの花粉対策を行っていると言える。

### ④最近3か月間で花粉対策で購入した商品

- この3か月くらいの間に、自分や家族が花粉対策用にどのような商品を購入したかを聞いたところ、「花粉症による鼻への負担がかかりにくい保湿ティッシュ・ローションティッシュ」が12%と最も多かったが、それ以外の商品はいずれも1～6%と少ない。
- 「ここにあげた10商品の中にはない」という回答は73%あり、7割強の人は花粉対策を意識した商品を購入していなかった。

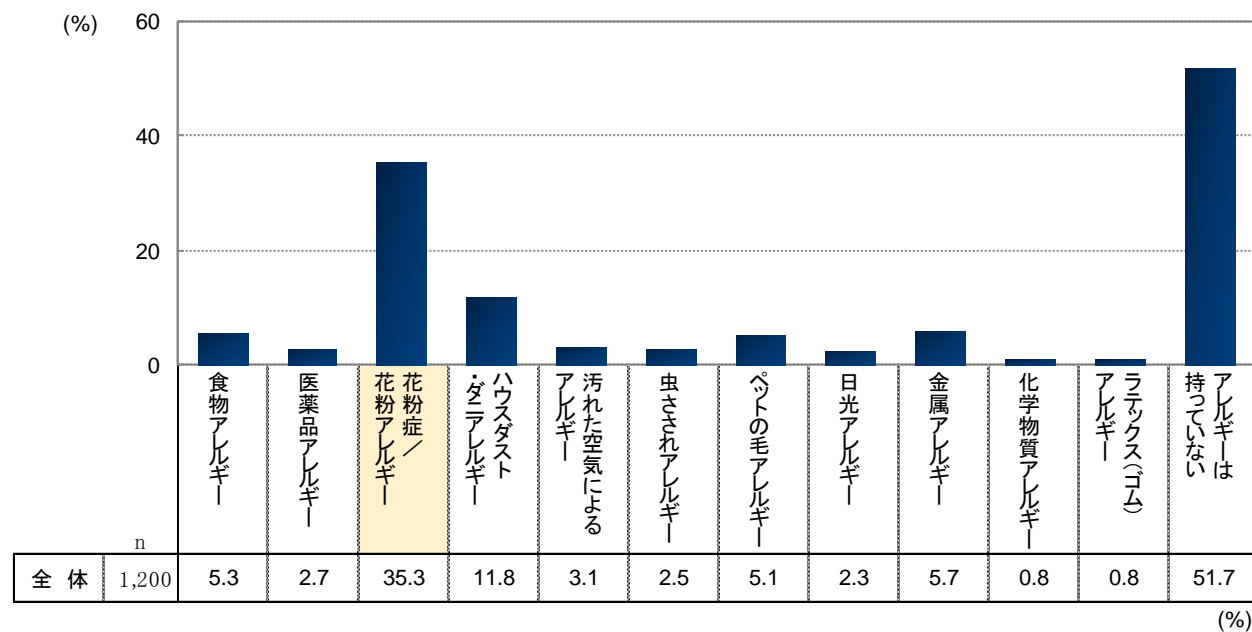
### ⑤マスクをつけることについて

- 【恥ずかしい・格好悪い】と【不潔に感じる】というネガティブな意見に対して、「そう思う」は4%と少なく、8割前後が「そう思わない」と否定している。
- 時系列推移をみると、【恥ずかしい・格好悪い】を肯定する人は、2010年では12%だったが、2016年では4%と減少している。
- 【呼吸しにくい】は、「そう思う」が53%で、「そう思わない」の25%を上回る。
- 【マスクをすると安心・落ち着く】は、「そう思わない」が40%で、「そう思う」の21%を上回る。
- 【花粉症予防に効果はない】は、「そう思わない」が50%で、「そう思う」7%を上回るが、「どちらともいえない」が4割強ある。
- つまり、マスクを【恥ずかしい・格好悪い】【不潔に感じる】というネガティブイメージは否定されているが、一方で、【安心・落ち着く】イメージを支持する人は多数ではない。また、【呼吸しにくい】と感じている人は5割以上と多いが、【花粉症予防に効果がある】と感じている人も5割いる。

- ◆以下の11種を提示して、現在、次のようなアレルギーを持っているかを複数回答で聞いた結果である。
- ◆2016年全体の結果では、「アレルギーは持っていない」と回答した人は52%であり、すなわち、2人に1人はなんらかの「アレルギー」を持っている。
- ◆アレルギーの種類では「花粉症/花粉アレルギー」が35%と最も多い。次いで、「ハウスダスト・ダニアレルギー」が12%、「金属アレルギー」「食物アレルギー」「ペットの毛アレルギー」が5%台で続く。

Q 現在あなたは、次のようなアレルギーをお持ちですか。以下の中からいくつでもお選びください。（複数回答）

■ 全体 2016年



- ◆男女の違いをみると大差ではないが、「アレルギーは持っていない」は女性の方が男性より少ない。女性の方がアレルギー症状のある人が多いようである。
- ◆年代別でみると、「花粉症/花粉アレルギー」は、15～29才は32～36%だが、30～40代では40～44%と多い。さらに、50代では38%、60代では31%、70代では25%と、高齢になるほど減少する。
- ◆「ハウスダスト・ダニアレルギー」は、全体では12%だが、15～39才では17～18%と比較的多い。一方、60～70代では2～6%と少ない。
- ◆「ペットの毛アレルギー」や「金属アレルギー」は、全体では5%台と少ないが、30代では1割強と多くみられる。
- ◆「アレルギーは持っていない」に注目すると、30代で最も少なく、70代で最も多い。つまり、なんらかのアレルギー症状を持っている人は30代で最も多く、70代で少ない。

## ■ 性別・年代別 2016年

		n	食物アレルギー	医薬品アレルギー	花粉症 /花粉 アレルギー	ハウスダスト ・ダニ アレルギー	汚れた 空気による アレルギー	虫さされ アレルギー	ペットの毛 アレルギー	日光 アレルギー	金属 アレルギー	化学物質 アレルギー	ラテックス (ゴム) アレルギー	アレルギーは 持っていない
全体		1,200	5.3	2.7	35.3	11.8	3.1	2.5	5.1	2.3	5.7	0.8	0.8	51.7
性別	男性	596	4.7	2.3	33.6	11.4	3.2	1.0	4.5	1.0	2.2	0.3	0.7	55.7
	女性	604	6.0	3.0	37.1	12.1	3.0	4.0	5.6	3.6	9.1	1.2	0.8	47.7
年代別	15～19才	71	7.0	0.0	32.4	18.3	4.2	4.2	8.5	0.0	1.4	0.0	0.0	56.3
	20～29才	149	7.4	1.3	35.6	17.4	2.0	2.7	8.7	1.3	6.0	0.0	0.7	48.3
	30～39才	194	5.7	1.5	43.8	17.0	3.1	1.5	12.4	3.6	10.8	0.5	1.0	40.2
	40～49才	214	8.4	3.3	39.7	15.9	2.8	2.8	5.1	2.8	7.0	0.9	0.5	46.7
	50～59才	183	4.4	3.8	37.7	9.8	3.8	1.6	1.6	2.7	3.8	0.5	1.1	51.4
	60～69才	219	2.7	3.2	30.6	5.9	4.6	2.7	1.4	2.3	5.9	1.8	0.0	55.7
	70～79才	170	2.9	3.5	24.7	2.4	1.2	2.9	0.6	1.8	1.2	0.6	1.8	67.1

(% )

(注)  は全体より5ポイント以上高い、 は5ポイント以上低い

- ◆エリア別にみると、「花粉症/花粉アレルギー」は関東（41%）、近畿（44%）で多く、北海道・東北（21%）、中国・四国・九州（26%）で少ない。
- ◆都市規模別にみると、「花粉症/花粉アレルギー」は、21大都市で42%と多い。
- ◆花粉症以外のアレルギーでは、エリアや都市規模別に大きな差はなかった。

## ■ エリア別・都市規模別 2016年

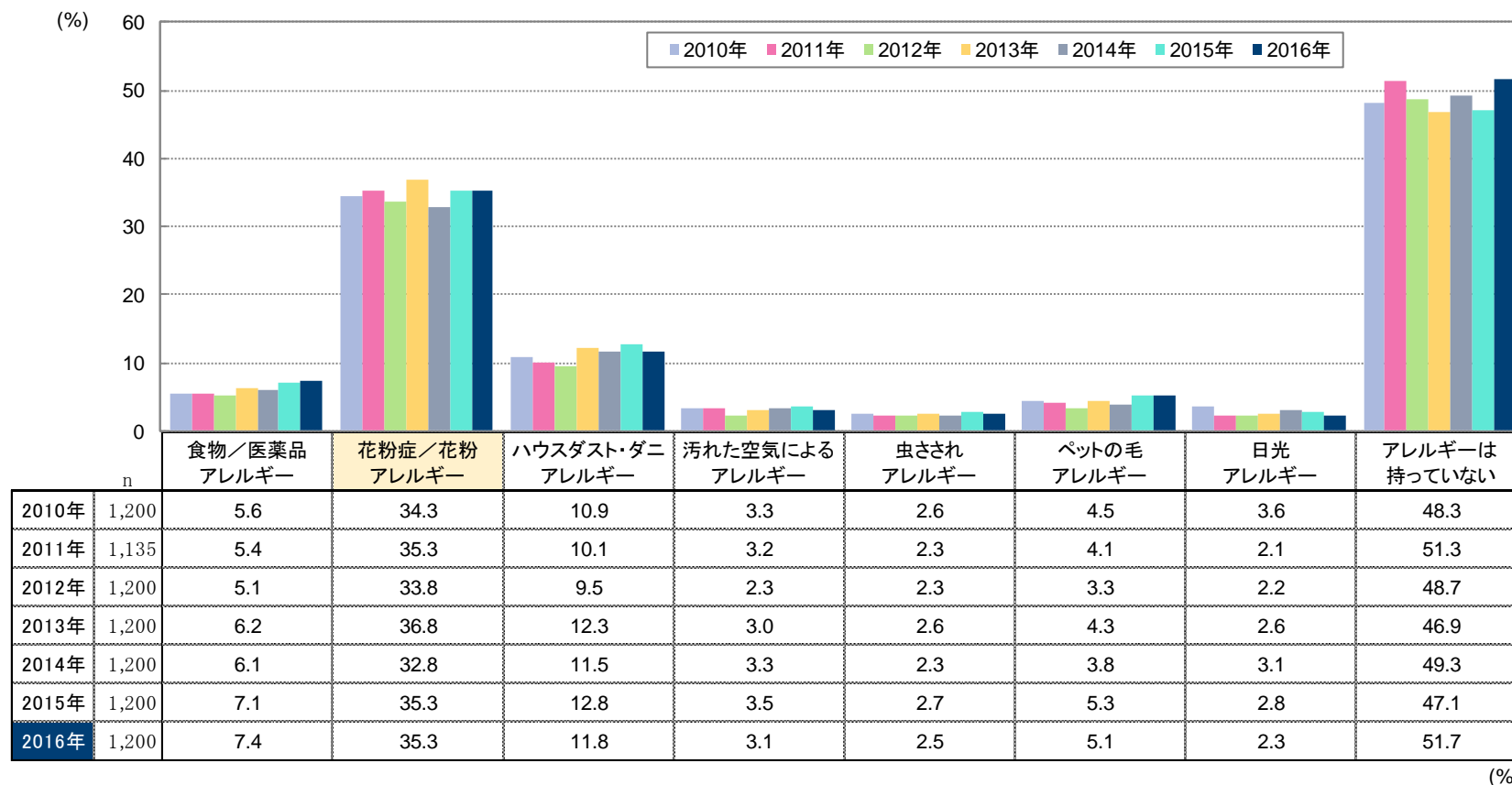
		n	食物アレルギー	医薬品アレルギー	花粉症／花粉アレルギー	ハウスダスト・ダニアレルギー	汚れた空気によるアレルギー	虫さされアレルギー	ペットの毛アレルギー	日光アレルギー	金属アレルギー	化学物質アレルギー	ラテックス（ゴム）アレルギー	アレルギーは持っていない
全体		1,200	5.3	2.7	35.3	11.8	3.1	2.5	5.1	2.3	5.7	0.8	0.8	51.7
エリア別	北海道・東北	144	4.2	4.9	20.8	14.6	3.5	2.8	7.6	2.1	6.9	0.7	0.7	56.9
	関東	432	6.3	2.3	41.0	10.9	3.9	3.2	3.9	2.8	5.8	0.9	0.9	48.1
	中部・北陸	192	2.6	3.1	36.5	9.4	2.1	1.0	5.7	3.1	3.6	0.0	0.5	52.6
	近畿	192	7.3	2.6	44.3	14.6	1.0	2.1	4.7	2.1	7.3	0.5	0.0	45.8
	中国・四国・九州	240	5.0	1.7	25.8	11.3	3.8	2.5	5.4	1.3	5.0	1.3	1.3	58.8
都市規模別	21大都市	342	7.0	2.6	41.8	14.0	2.3	2.6	5.0	1.2	6.7	0.3	0.6	45.3
	15万以上の都市	378	5.6	2.1	34.1	11.6	2.6	2.4	5.6	3.7	5.8	1.1	0.8	51.9
	15万未満の市	366	3.8	2.7	31.1	9.8	4.9	2.2	4.4	2.2	4.4	0.5	1.1	57.4
	郡部	114	4.4	4.4	33.3	11.4	0.9	3.5	6.1	1.8	6.1	1.8	0.0	51.8

(%)

(注)  は全体より5ポイント以上高い、 は5ポイント以上低い

- ◆ 2010年からの時系列変化をみると、「花粉症/花粉アレルギー」は2016年が35%で、昨年と変化がなかった。
- ◆ この7年間の推移では、2014年が33%と最も少なく、2013年が37%と最も多かったが、その差は4ポイント程度である。
- ◆ 花粉症以外のアレルギーについては、この7年間で大きな変化がみられるものはなく、安定している。

## ■ 全体 時系列

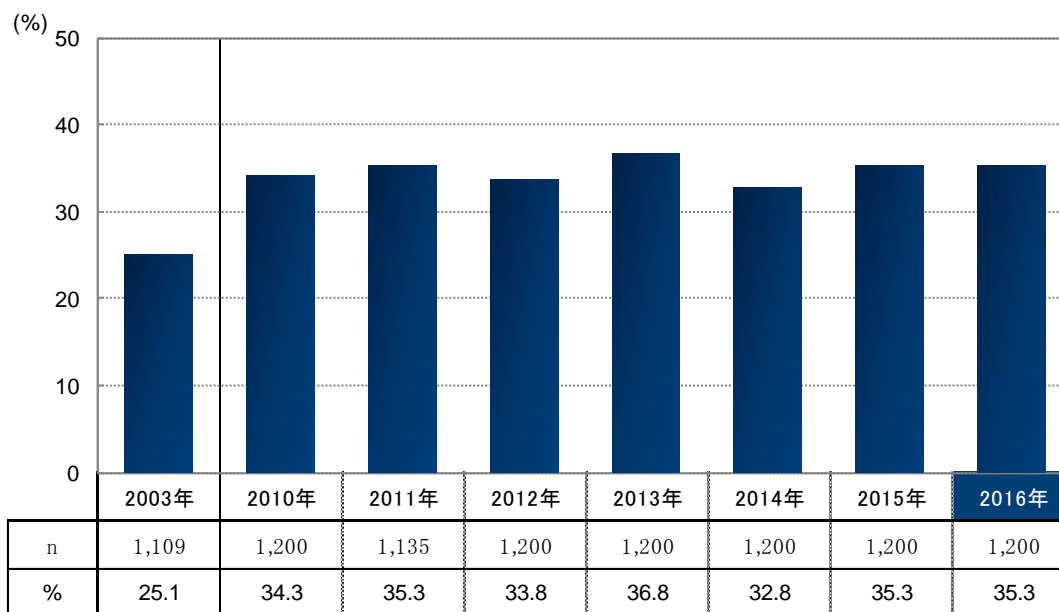


(%)



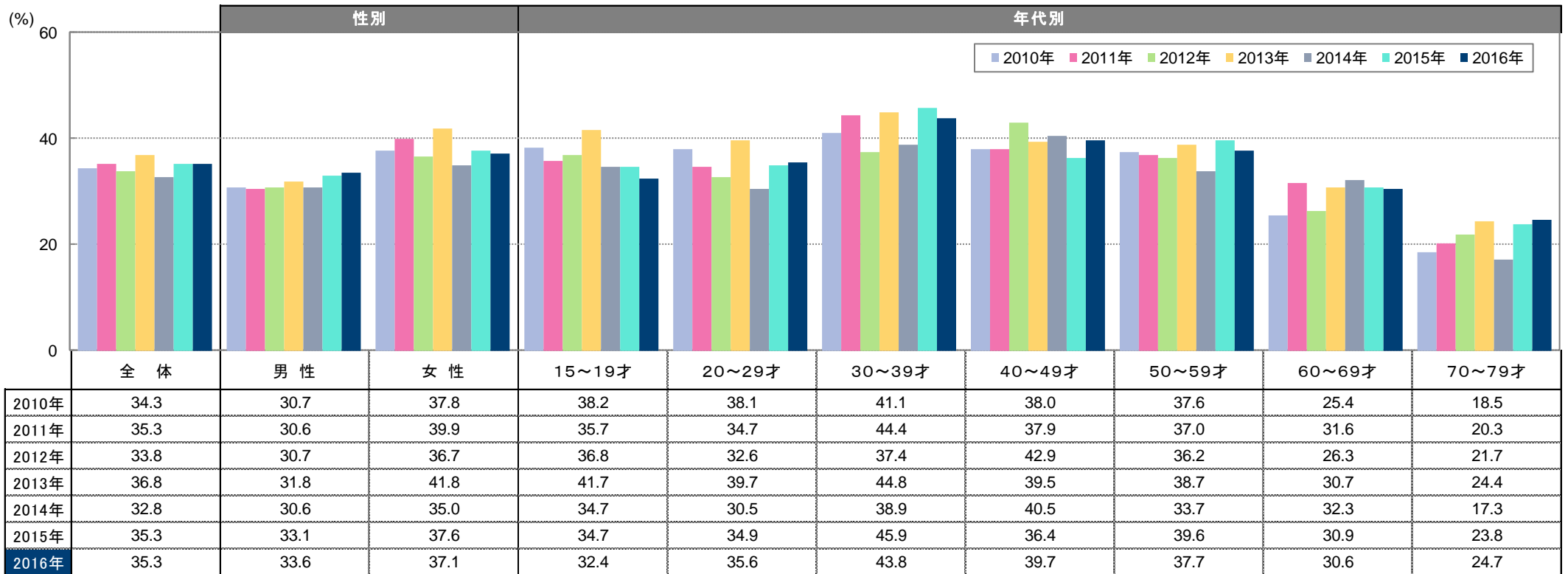
- ◆「花粉症/花粉アレルギー」については、2003年との時系列変化もみてみた。
- ◆2003年は25%だったが、2010年以降は3割半ばで推移している。
- ◆2003年と2016年の2期での変化をみると、25%→35%と10ポイント増加している。

### ■ 全体 時系列



- ◆ 2010年からの時系列推移を性別、年代別にみたものである。
- ◆ 性別で見ると、男性は31~34%の推移だが、女性は35~42%と年によるバラツキが大きい。

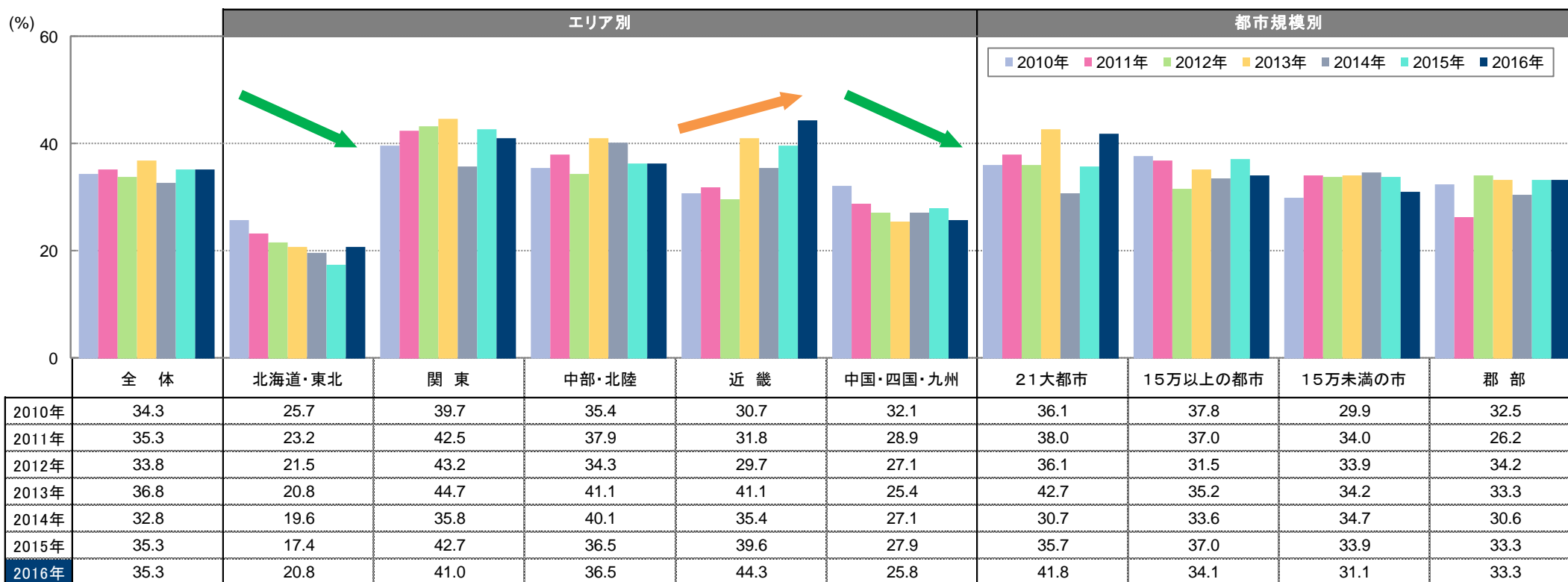
## ■ 性別・年代別 時系列



(%)

- ◆ 2010年からの時系列推移をエリア別、都市規模別にみたものである。
- ◆ 昨年から今年の変化に注目すると、全体では変化はなかったが、エリアでは近畿で、都市規模別では21大都市で増加傾向がみられる。
- ◆ また、2010年から2016年の7年間の動きを総じてみると、北海道・東北と中国・四国・九州では減少、近畿では増加の傾向がみられる。

## ■ エリア別・都市規模別 時系列

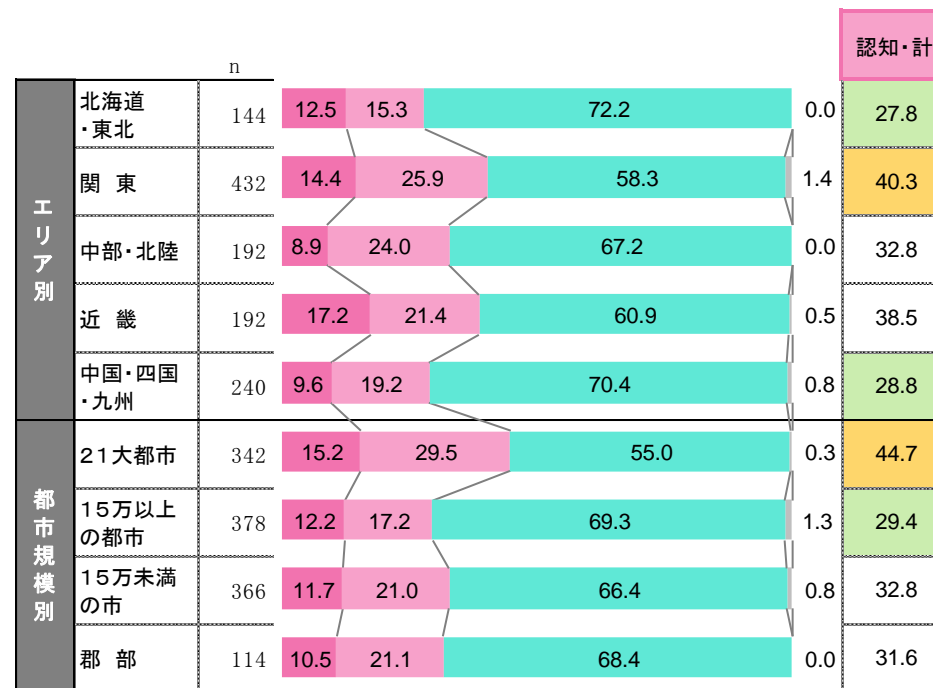
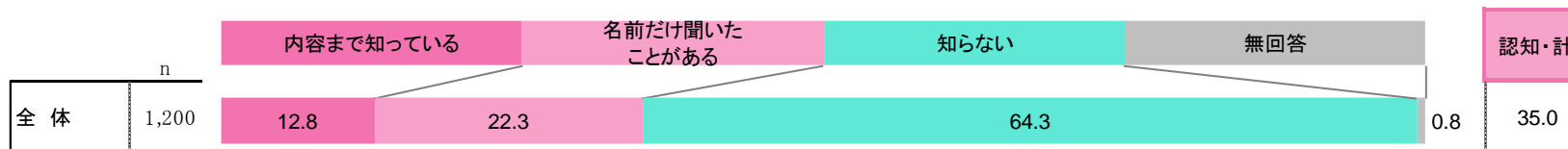


(%)

- ◆「舌下免疫療法」を簡単に説明した後、この療法に関する認知を聞いたところ、2016年の全体結果では、内容まで認知している人は13%、名前だけの認知は22%で、合わせて35%の人が知っていた。
- ◆属性別にみると、年代別では30代と50代、エリア別では関東、都市規模別では21大都市で、認知者（認知・計）が多い。

Q あなたは、「舌下免疫療法」についてご存知ですか。「舌下免疫療法」とは、アレルギーの原因物質（アレルゲン）を含むエキスを舌の下に投与し、体内に吸収させる方法で、この投与を数年に渡って継続的に行うことで症状を軽減させる治療法です。スギ花粉症やダニアレルギーの治療薬は保険適応になります。（単数回答）

## ■ 全体と属性別 2016年



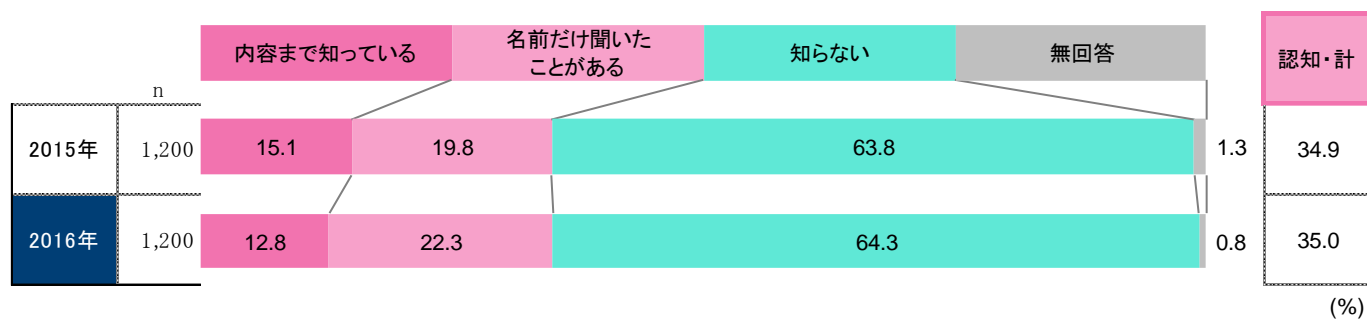
(注)   は全体より5ポイント以上高い、  は5ポイント以上低い

(%)

◆ 2015年の結果と比較すると、内容までと名前だけを合わせた認知・計は、昨年も今年も35%で変化はなかった。

Q あなたは、「舌下免疫療法」についてご存知ですか。「舌下免疫療法」とは、アレルギーの原因物質（アレルゲン）を含むエキスを舌の下に投与し、体内に吸収させる方法で、この投与を数年に渡って継続的に行うことで症状を軽減させる治療法です。スギ花粉症やダニアレルギーの治療薬は保険適応になります。（単数回答）

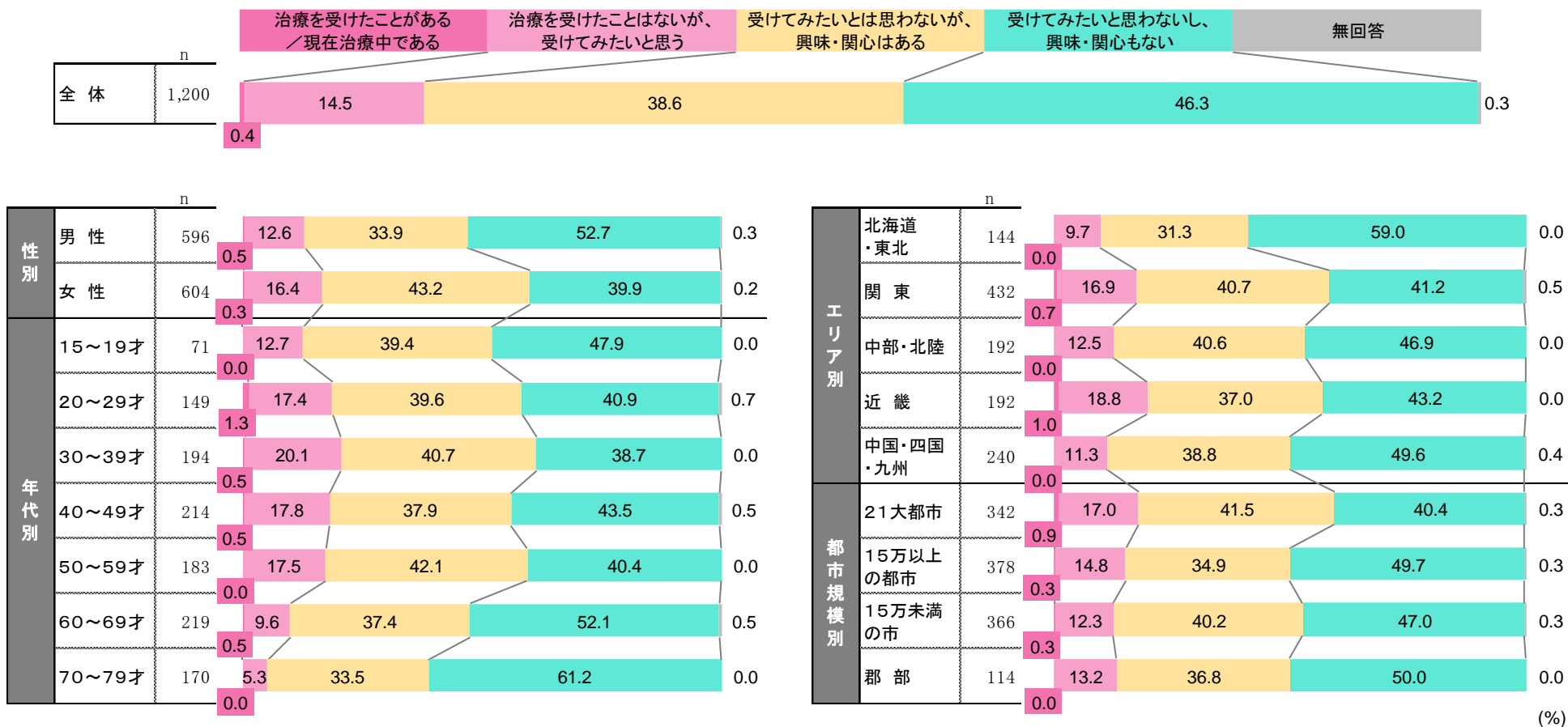
### ■ 全体 時系列



- ◆スギ花粉症やダニアレルギーの治療として、「舌下免疫療法」を受けてみたいと思うかを聞いたところ、2016年全体結果では、「治療を受けたことがある/現在治療中である」は1%未満だが、「受けたことはないが、受けてみたいと思う」は15%ある。また、「受けてみたいとは思わないが、興味・関心はある」は39%で、治療意向は1割半ばと少ないが、興味関心を持っている人も合わせれば、半数以上が意向または関心を持っていると言える。
- ◆属性別にみると、花粉アレルギーが多かった30代では、治療意向が2割と比較的高い。

Q あなたは、スギ花粉症やダニアレルギーの治療として、この「舌下免疫療法」を受けてみたいと思いますか。（単数回答）

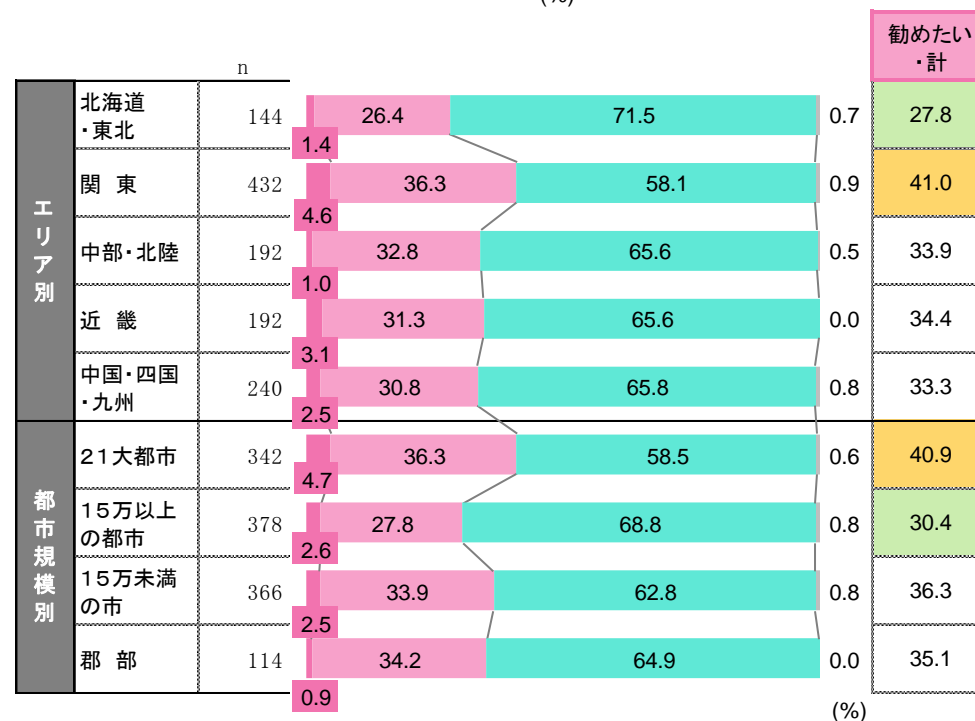
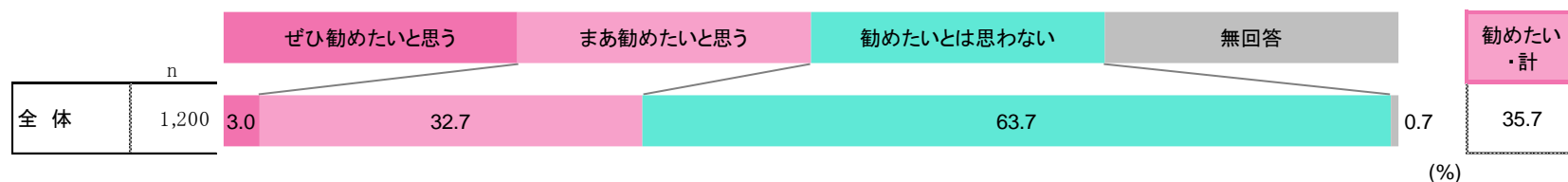
### ■ 全体と属性別 2016年



- ◆ スギ花粉症やダニアレルギーの治療として、「舌下免疫療法」を家族や友人に勧めたいと思うかを聞いたところ、2016年全体結果では、「ぜひ勧めたいと思う」は3%と少ないが、「まあ勧めたいと思う」と回答した人は33%あり、合わせると36%の人が推奨意向を示している。
- ◆ 属性別にみると、年代別では20代と50代、エリア別では関東、都市規模別では21大都市で、「ぜひ+まあ勧めたいと思う」人が多い。

Q あなたは、スギ花粉症やダニアレルギーの治療として、この「舌下免疫療法」を家族や友人の方に勧めたいと思いますか。（単数回答）

## ■ 全体と属性別 2016年

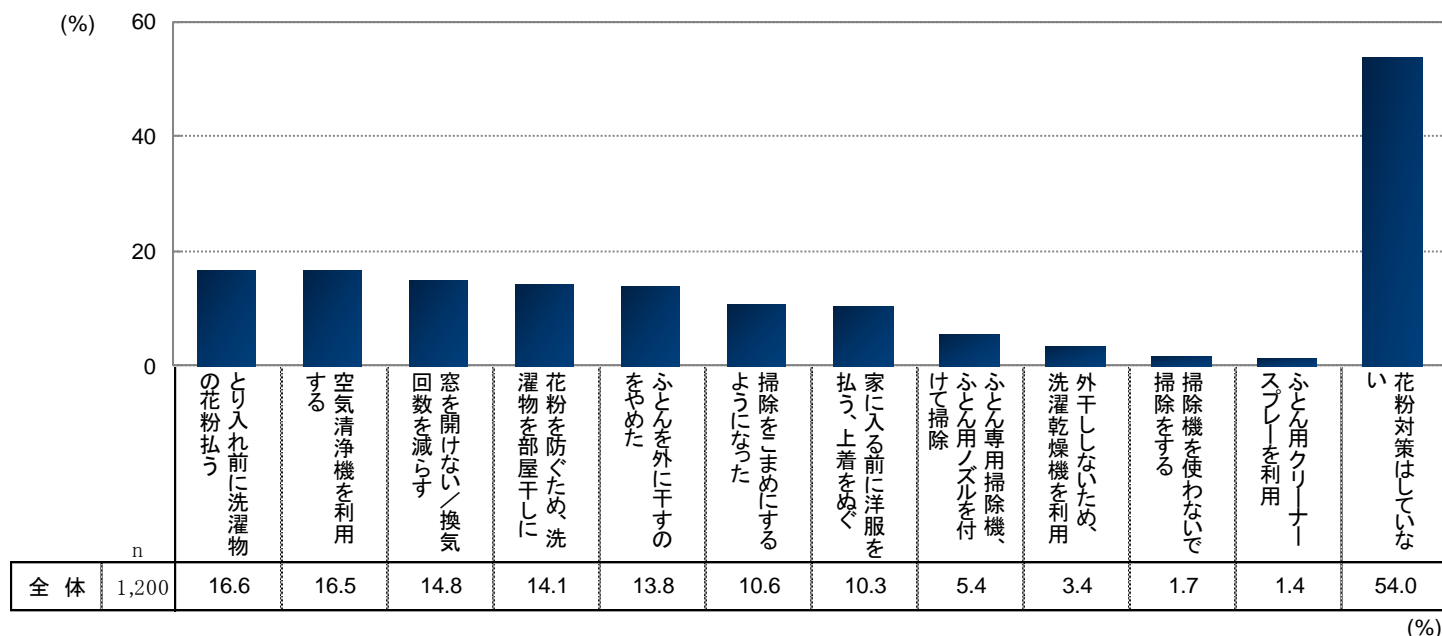


(注)   は全体より5ポイント以上高い、  は5ポイント以上低い

- ◆この3か月くらいの間に、自分や家族が花粉対策のためにどのような行動をしたかを聞いたところ、2016年全体では、「外に干した洗濯物を取り入れる前に、洗濯物の花粉を払うようになった」と「空気清浄機を利用するようになった」がともに17%で最も多い。次いで、「窓を開けなくなった／換気の回数を減らした」「花粉がつくのを防ぐため、洗濯物を部屋干しするようになった」「ふとんを外に干すのをやめた」が14~15%で続く。
- ◆「ふとん用クリーナー Sprey を利用するようになった」「ふとん専用掃除機を利用したり、ふとん用掃除機ノズルを付けて掃除するようになった」など、ふとんの掃除行動は5%以下と少ない。
- ◆一方で、「上記のような花粉対策はしていない」は54%ある。つまり、半数近くの世帯では、以下のようないずれかの花粉対策を行っていると言える。

Q この3ヶ月くらいの間に、あなたご自身やご家族が、花粉対策のためにとった行動として、下記の中からあてはまるものをいくつでもお知らせください。（複数回答）

■ 全体（多い順に並び替え） 2016年





- ◆性別で見ると、「外に干した洗濯物をとり入れる前に、洗濯物の花粉を払うようになった」は、男性よりも女性で多い。また、「花粉対策はしていない」は女性では48%と半数以下だが、男性では6割と多い。つまり、以下のような花粉対策行動は、男女差があり、女性で多く行われている。
- ◆年代別で見ると、40代は、「外に干した洗濯物をとり入れる前に、洗濯物の花粉を払うようになった」「窓を開けなくなった／換気の回数を減らした」「花粉がつくのを防ぐため、洗濯物を部屋干しするようになった」が比較的多く、花粉対策行動の比率が高い。

## ■ 性別・年代別（多い順に並び替え） 2016年

		n	とり入れ前に洗濯物の花粉を払う	空気清浄機を利用する	窓を開けない／換気回数を減らす	花粉を防ぐため、洗濯物を部屋干しに	ふとんを外に干すのをやめた	掃除をこまめにするようになった	家に入る前に洋服を払う、上着をぬぐ	ふとん専用掃除機、ふとん用ノズルを付けて掃除	外干ししないため、洗濯乾燥機を利用	掃除機を使わないで掃除をする	ふとん用クリーナーをスプレーを利用	花粉対策はしていない
全体		1,200	16.6	16.5	14.8	14.1	13.8	10.6	10.3	5.4	3.4	1.7	1.4	54.0
性別	男性	596	11.4	13.6	12.2	13.1	9.1	9.7	9.7	4.7	3.4	1.8	1.0	59.7
	女性	604	21.7	19.4	17.2	15.1	18.4	11.4	10.9	6.1	3.5	1.5	1.8	48.3
年代別	15～19才	71	16.9	22.5	14.1	15.5	11.3	8.5	12.7	1.4	4.2	4.2	2.8	59.2
	20～29才	149	12.1	15.4	12.1	11.4	8.7	7.4	7.4	6.0	2.7	0.0	0.7	55.0
	30～39才	194	16.0	16.5	18.0	19.6	13.9	17.5	11.9	6.7	4.6	2.1	2.6	47.9
	40～49才	214	22.0	16.8	20.1	19.2	18.7	8.9	12.1	6.5	4.7	1.4	0.9	45.3
	50～59才	183	19.1	18.6	14.8	14.2	14.2	12.0	13.1	6.6	4.9	1.1	1.1	49.2
	60～69才	219	15.5	15.5	10.5	12.3	13.2	11.0	10.5	5.0	1.8	1.8	1.4	59.8
	70～79才	170	12.9	13.5	12.4	5.3	12.9	6.5	4.7	2.9	1.2	2.4	1.2	66.5

(注)  は全体より5ポイント以上高い、  は5ポイント以上低い

(%)

- ◆エリア別でみると、北海道・東北では「花粉対策をしていない」が76%と多い。
- ◆一方、関東と近畿では、「花粉対策をしていない」が半数以下と低く、何らかの行動をしている人が多いことがわかる。関東では、「窓を開けなくなった／換気回数を減らした」「花粉がつくのを防ぐため、洗濯物を部屋干しするようになった」が約2割と多く、近畿では、「外に干した洗濯物をとり入れる前に、洗濯物の花粉を払うようになった」が24%、「ふとんを外に干すのをやめた」が2割弱と多くなっている。

## ■ エリア別・都市規模別（多い順に並び替え） 2016年

	n	とり入れ前に洗濯物の花粉を払う	空気清浄機を利用する	窓を開けない／換気回数を減らす	花粉を防ぐため、洗濯物を部屋干しに	ふとんを外に干すのをやめた	掃除をこまめにするようになった	家に入る前に洋服を払う、上着をぬぐ	ふとん専用掃除機、ふとん用ノズルを付けて掃除	外干ししないため、洗濯乾燥機を利用	掃除機を使わないで掃除をする	ふとん用クリーナーをスプレーを利用	花粉対策はしていない	
全体	1,200	16.6	16.5	14.8	14.1	13.8	10.6	10.3	5.4	3.4	1.7	1.4	54.0	
エリア別	北海道・東北	144	4.2	9.0	5.6	8.3	4.2	9.7	6.3	2.1	2.1	0.7	0.7	75.7
	関東	432	19.4	18.1	19.9	19.4	18.5	10.9	14.4	5.1	3.2	1.9	1.4	47.0
	中部・北陸	192	15.6	16.7	14.1	9.9	10.9	8.9	7.3	7.3	2.1	2.1	1.0	57.3
	近畿	192	24.0	20.3	16.1	13.0	18.8	9.9	10.9	5.7	5.2	0.5	1.6	46.9
	中国・四国・九州	240	13.8	15.0	10.4	12.1	9.2	12.5	7.5	6.3	4.2	2.5	2.1	56.7
都市規模別	21大都市	342	16.1	19.0	13.2	12.9	12.0	10.5	12.6	5.8	2.6	1.5	0.9	53.2
	15万以上の都市	378	17.2	14.6	16.9	14.8	14.3	13.2	9.0	4.5	3.7	1.9	1.9	53.2
	15万未満の市	366	15.3	14.8	14.5	14.8	13.7	9.6	9.0	4.9	3.8	1.9	1.1	55.2
	郡部	114	20.2	21.1	13.2	13.2	17.5	5.3	12.3	8.8	3.5	0.9	2.6	55.3

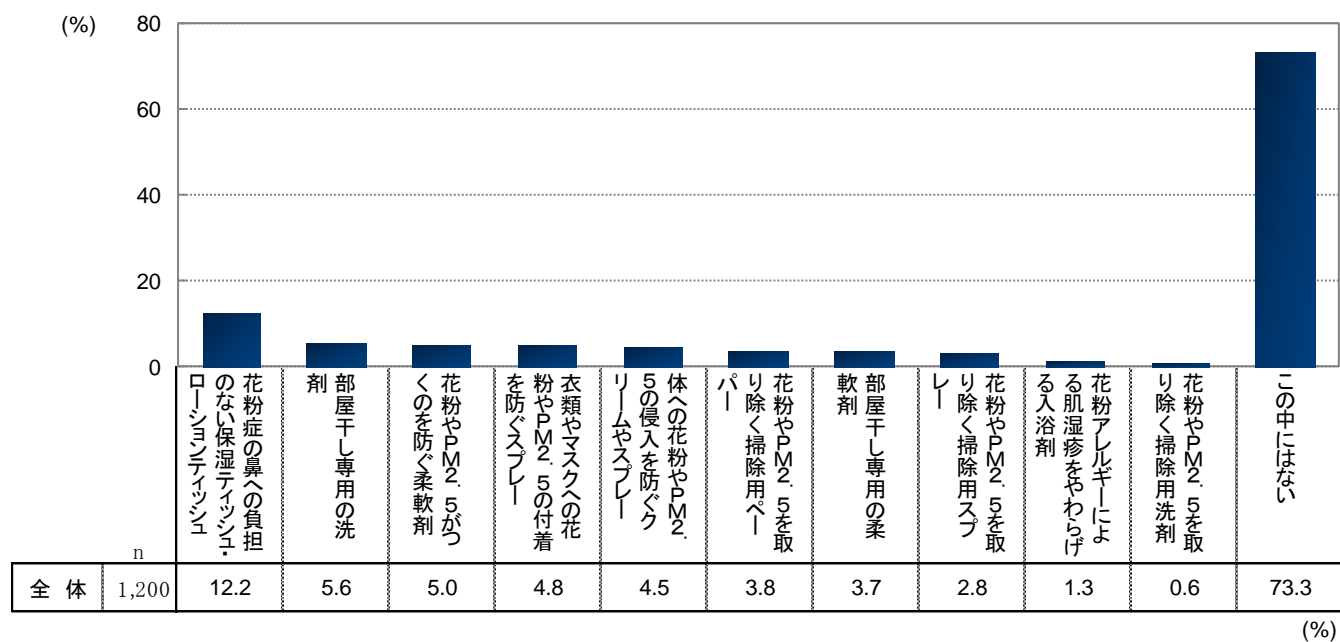
(%)

(注)  は全体より5ポイント以上高い、 は5ポイント以上低い

- ◆この3か月くらいの間に、自分や家族が花粉対策用にどのような商品を購入したかを聞いたところ、2016年全体では、「花粉症による鼻への負担がかかりにくい保湿ティッシュ・ローションティッシュ」が12%と最も多かったが、それ以外の商品はいずれも1~6%と少ない。
- ◆「ここにあげた10商品の中にはない」という回答は73%あり、7割強の人は花粉対策を意識した商品を購入していなかった。

Q この3ヶ月くらいの間に、あなたご自身やご家族が、花粉対策用に下記の商品をお買いになりましたか。  
次の中から（花粉対策を意識してお買いになったものだけ）あてはまるものをいくつでもお知らせください。（複数回答）

■ 全体（多い順に並び替え） 2016年



◆年代別でみると、「この中にはない」は10代では63%と少なく、70代では79%と多い。つまり、花粉対策用商品の購入は10代で多く、70代で少ない。

## ■ 性別・年代別（多い順に並び替え） 2016年

	n	花粉症の鼻への負担のない保湿ティッシュ・ローションティッシュ	部屋干し専用の洗剤	花粉やPM2.5がつくのを防ぐ柔軟剤	衣類やマスクへの花粉やPM2.5の付着を防ぐスプレー	体への花粉やPM2.5の侵入を防ぐクリームやスプレー	花粉やPM2.5を取り除く掃除用ペーパー	部屋干し専用の柔軟剤	花粉やPM2.5を取り除く掃除用スプレー	花粉アレルギーによる肌湿疹をやわらげる入浴剤	花粉やPM2.5を取り除く掃除用洗剤	この中にはない (%)	
全体	1,200	12.2	5.6	5.0	4.8	4.5	3.8	3.7	2.8	1.3	0.6	73.3	
性別	男性	596	9.6	4.5	2.7	4.2	4.5	3.5	3.2	2.2	0.8	77.9	
	女性	604	14.7	6.6	7.3	5.3	4.5	4.0	4.1	3.5	1.7	68.9	
年代別	15～19才	71	15.5	11.3	5.6	4.2	7.0	1.4	5.6	2.8	1.4	63.4	
	20～29才	149	10.1	4.7	4.0	6.7	4.0	0.7	2.7	2.0	0.0	75.8	
	30～39才	194	13.9	6.2	4.6	4.6	3.1	4.1	4.6	3.6	1.5	74.2	
	40～49才	214	15.0	4.7	3.7	4.2	5.6	3.3	4.2	1.9	0.9	71.5	
	50～59才	183	15.3	6.0	7.1	5.5	5.5	5.5	2.7	2.7	0.5	69.4	
	60～69才	219	9.6	4.1	5.9	4.6	5.5	4.6	2.7	5.5	2.3	0.5	74.9
	70～79才	170	7.1	5.9	4.1	3.5	1.8	4.7	4.1	0.6	1.8	0.0	78.8

(注)      は全体より5ポイント以上高い、      は5ポイント以上低い

(%)

◆エリア別でみると、「この中にはない」は、北海道・東北で79%と多く、関東で68%と少ない。つまり、北海道・東北では花粉対策用商品の購入が少なく、関東で多いことがわかる。

## ■ エリア別・都市規模別（多い順に並び替え） 2016年

		n	花粉症の鼻への負担のない保湿ティッシュ・ローションティッシュ	部屋干し専用の洗剤	花粉やPM2.5がつくのを防ぐ柔軟剤	衣類やマスクへの花粉やPM2.5の付着を防ぐスプレー	体への花粉やPM2.5の侵入を防ぐクリームやスプレー	花粉やPM2.5を取り除く掃除用ペーパー	部屋干し専用の柔軟剤	花粉やPM2.5を取り除く掃除用スプレー	花粉アレルギーによる肌湿疹をやわらげる入浴剤	花粉やPM2.5を取り除く掃除用洗剤	この中にはない
全体		1,200	12.2	5.6	5.0	4.8	4.5	3.8	3.7	2.8	1.3	0.6	73.3
エリア別	北海道・東北	144	15.3	7.6	2.8	2.8	2.8	1.4	8.3	3.5	1.4	0.0	78.5
	関東	432	15.5	5.6	6.3	4.9	6.3	5.3	3.9	2.3	1.2	0.7	68.3
	中部・北陸	192	11.5	5.2	5.7	5.2	2.6	3.1	2.1	0.5	1.6	1.0	74.5
	近畿	192	9.4	5.2	4.7	5.2	4.2	2.1	2.6	4.7	1.0	0.5	75.0
	中国・四国・九州	240	7.1	5.0	3.8	5.0	4.2	4.2	2.5	3.8	1.3	0.4	77.1
都市規模別	21大都市	342	12.0	5.0	4.4	3.2	5.3	4.4	3.2	3.5	0.9	0.9	73.4
	15万以上の都市	378	11.1	6.6	5.6	7.4	5.6	1.9	4.2	3.2	1.3	0.3	72.5
	15万未満の市	366	13.1	4.9	4.9	3.6	3.0	4.9	3.3	1.1	1.4	0.3	72.7
	郡部	114	13.2	6.1	5.3	4.4	3.5	4.4	4.4	5.3	1.8	1.8	78.1

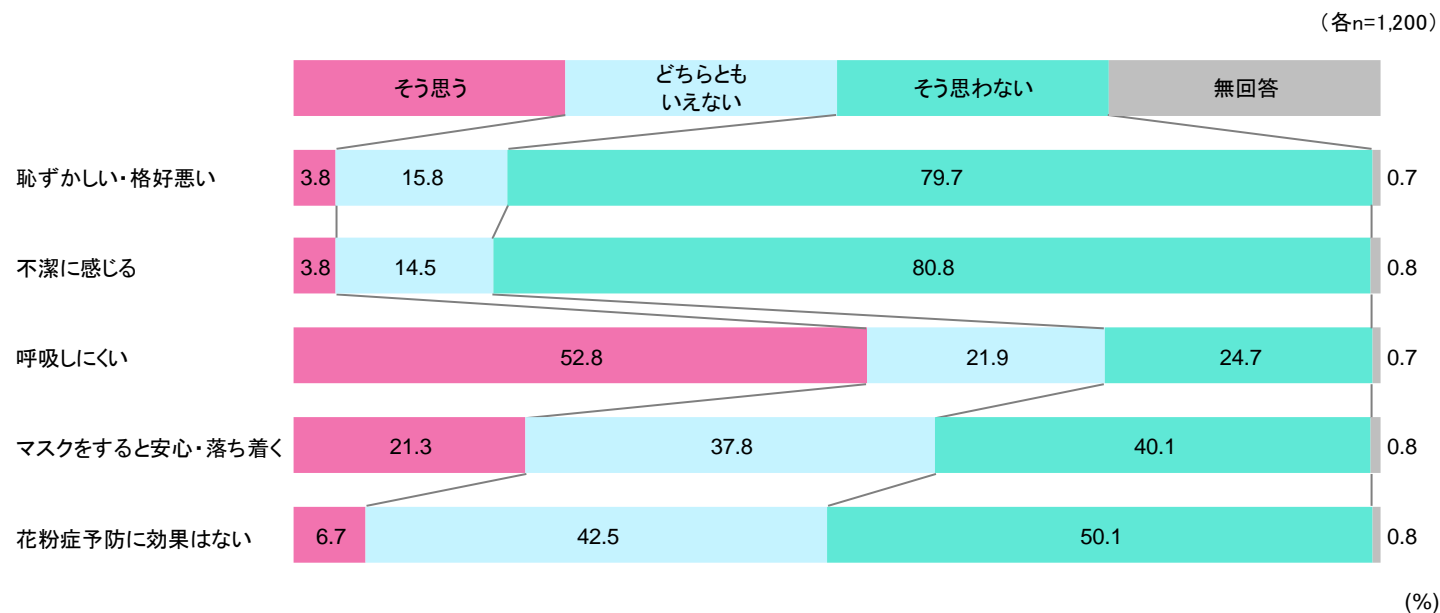
(注)  は全体より5ポイント以上高い、  は5ポイント以上低い

(%)

- ◆ マスクの装着で感じることを、以下の5項目に分けて質問した結果である。2016年全体の結果では、【恥ずかしい・格好悪い】と【不潔に感じる】というネガティブな意見に対しては、「そう思う」は4%と少なく、8割前後が「そう思わない」と否定している。
- ◆ 【呼吸しにくい】は、「そう思う」が53%で、「そう思わない」の25%を上回る。
- ◆ 【マスクをすると安心・落ち着く】は、「そう思わない」が40%で、「そう思う」の21%を上回る。
- ◆ 【花粉症予防に効果はない】は、「そう思わない」が50%で、「そう思う」7%を上回るが、「どちらともいえない」が4割強ある。
- ◆ マスクを【恥ずかしい・格好悪い】【不潔に感じる】というネガティブイメージは否定されているが、一方で、【安心・落ち着く】イメージを支持する人は多数ではない。また、【呼吸しにくい】と感じている人は5割以上と多いが、【花粉症予防に効果がある】と感じている人も5割いる。

Q 「マスクを装着すること」について感じることを、「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」の中からお知らせください。(各単数回答)

## ■ 全体 2016年



◆ 属性別でみると、【呼吸しにくい】は20代で多く、70代で少ない。また、70代では【マスクをすると安心・落ち着く】が比較的多い。

## ■ 属性別「そう思う」比率 2016年

		n	恥ずかしい・格好悪い	不潔に感じる	呼吸しにくい	マスクをすると安心・落ち着く	花粉症予防に効果はない
全体		1,200	3.8	3.8	52.8	21.3	6.7
性別	男性	596	4.4	4.2	52.9	18.1	8.2
	女性	604	3.3	3.5	52.6	24.5	5.1
年代別	15～19才	71	1.4	2.8	57.7	23.9	2.8
	20～29才	149	5.4	3.4	63.8	22.1	5.4
	30～39才	194	4.1	4.6	54.6	25.8	6.2
	40～49才	214	3.7	2.3	54.7	16.8	3.7
	50～59才	183	4.9	3.3	53.0	16.4	7.7
	60～69才	219	3.2	4.6	49.3	19.6	10.0
	70～79才	170	2.9	5.3	40.6	27.6	8.2

(%)

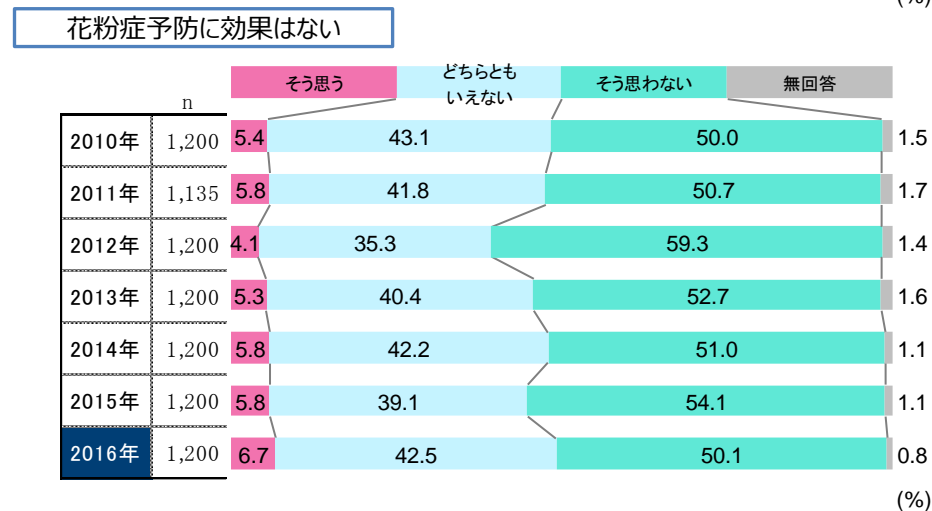
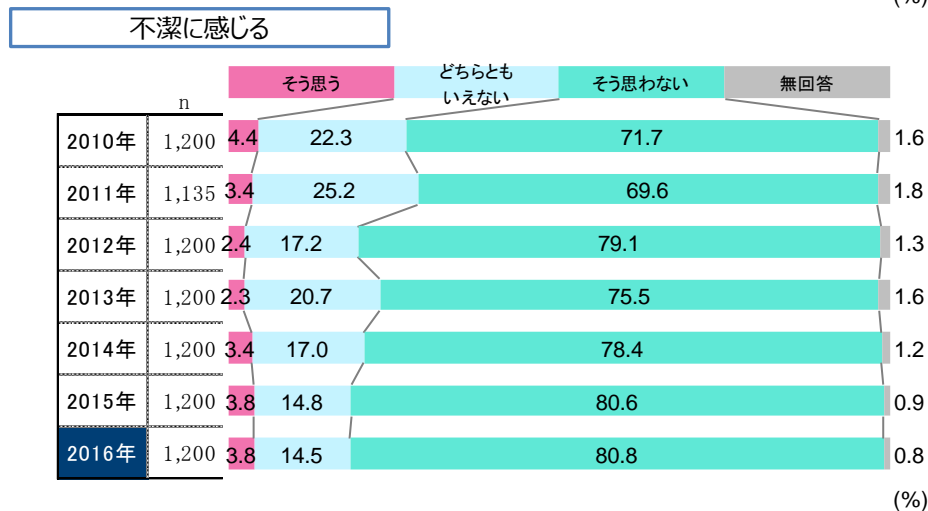
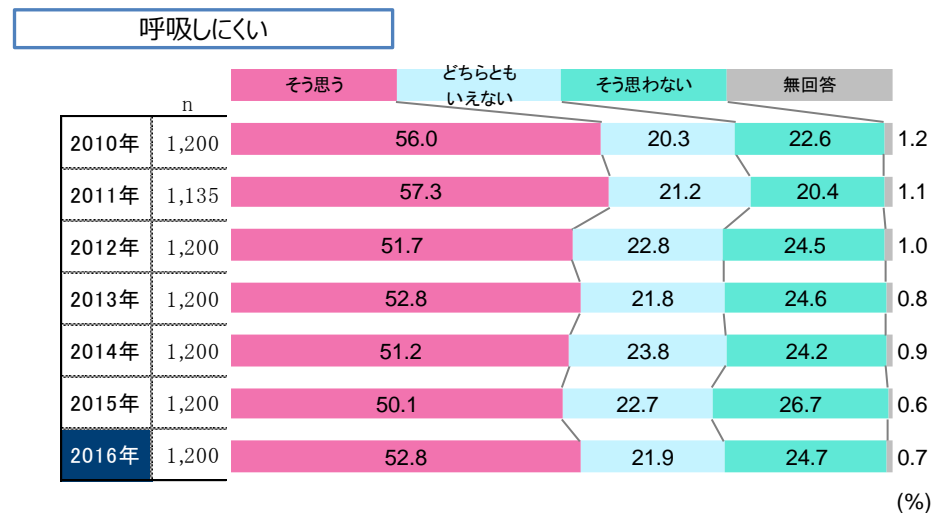
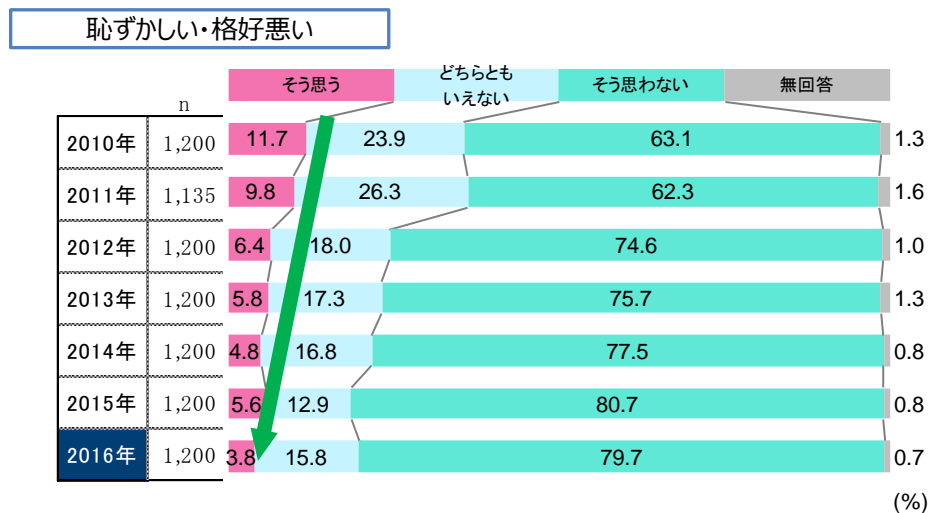
		n	恥ずかしい・格好悪い	不潔に感じる	呼吸しにくい	マスクをすると安心・落ち着く	花粉症予防に効果はない
全体		1,200	3.8	3.8	52.8	21.3	6.7
エリア別	北海道・東北	144	4.9	4.9	46.5	25.0	9.7
	関東	432	2.3	4.4	55.6	23.6	4.2
	中部・北陸	192	3.6	2.1	51.6	22.4	9.4
	近畿	192	5.7	3.6	55.7	16.1	7.3
	中国・四国・九州	240	4.6	3.8	50.0	18.3	6.7
都市規模別	21大都市	342	3.8	3.8	55.6	24.0	5.8
	15万以上の都市	378	3.7	4.0	51.3	24.1	6.9
	15万未満の市	366	3.8	3.6	53.3	16.9	5.7
	郡部	114	4.4	4.4	47.4	18.4	11.4

(%)

(注)  は全体より5ポイント以上高い、 は5ポイント以上低い

◆時系列推移をみると、【恥ずかしい・格好悪い】を肯定する人は減少傾向がみられ、2010年では12%だったが、2016年では4%まで減少している。

## ■ 全体 時系列





## 調査方法

- NOS（日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ）
- 調査員による個別訪問留置調査

## 調査対象

- 全国の15～79歳の男女個人 1,200人  
※エリア・都市規模と性年代構成は、日本の人口構成比に合致するよう割付をおこなった

## 抽出方法

- 毎月200地点を抽出、住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割当て

## 調査期間

- 2016/3/4～3/16（過去調査は2003年、2010年～2015年いずれも3月に実施）

### NOS（日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ）について

調査パネルを使ってインターネットで簡単に情報収集できる時代になりましたが、NOSでは、40年以上にわたって、

**①調査員を使った訪問留置、②パネルモニターではない毎回抽出方式で調査を継続しており、代表性のある信頼の高いデータを提供しております。**

NOSは、毎月1回定期的に実施する乗り合い形式（オムニバス）の調査です。

毎回ランダムに決められた200地点にて、対象となる方に調査員が協力を依頼してアンケートを回収します。

性年代構成を日本の人口構成比に合わせているため、全体結果は日本を代表する意見としてそのままご覧になることができます。

インターネット調査では、回収が難しい60代以上の対象者やインターネットを使っていない人の実態や意識を分析するのにも有用な手法と言えます。

## 《 引用・転載時のお願い 》

本レポートの引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

**連絡先：日本リサーチセンター広報室 メール：information@nrc.co.jp**

**掲載では必ず当社クレジットを明記していただき、  
調査結果のグラフ・表をご利用の場合も、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。**